

学びを生かし、生活をよりよくしようと工夫する児童の育成

—家庭科学習指導における「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」の設定と「ポートフォリオ」の導入を通して—

平成30年度 前橋長期研修研究員 室岡 みずき

研究の概要

主題設定の理由

【国】次期小学校学習指導要領家庭科編(平成29年7月告示)

家庭科の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成することを目指す。

【県】平成30年度群馬県学校教育の指針(家庭 家庭分野)

「生活の中から課題を設定し、
家庭・地域で実践する活動を題材の指導計画に位置付ける。」

【市】平成30年度前橋市各教科等指導の努力点(家庭科 技術・家庭科)

「身近な生活に生かす視点に立った、
実践的・体験的な学習活動の工夫」

【家庭科学習の現状】

協力校第5学年及び第6学年の児童の実態:学習したことを生かして家庭生活で実践することが十分ではない。

指導上の課題:学習したことを生かして、家庭生活で実践できる児童を育成するための指導が十分ではない。

【研究主題】

学びを生かし、生活をよりよくしようと工夫する児童の育成

研究主題の実現に向けて、①指導の工夫と
②家庭との連携が不可欠であると考えました。



研究のねらい

学びを生かし、生活をよりよくしようと工夫する児童を育成するために、①「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」の設定と②「ポートフォリオ」の導入が有効であることを授業実践を通して明らかにする。

研究の見通し

家庭科学習指導において以下の2つの手立てを講じることで、学びを生かし、生活をよりよくしようと工夫する児童を育てることができるであろう。

【手立て①】「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」の設定

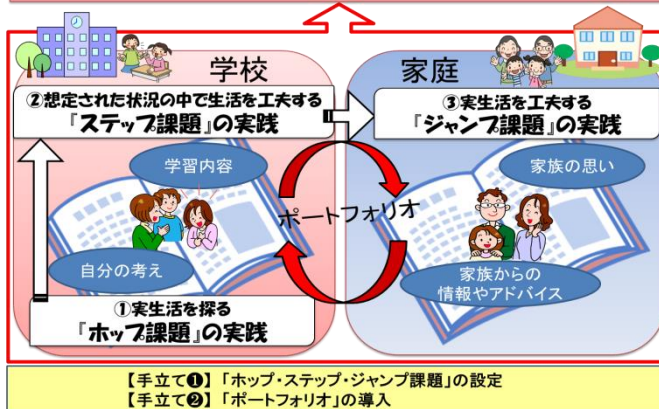
知識及び技能を繰り返し活用し、課題を解決する学習を家庭につなぐため、一連の学習過程に「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」を位置付けて題材を構成し、指導を工夫する。

【手立て②】「ポートフォリオ」の導入

家族の一員として生活の営みに協力しようとする意欲を高めるため、一連の学習過程を通して「ポートフォリオ」を導入し、家庭との連携を図る。

研究構想図

学びを生かし、生活をよりよくしようと工夫する児童の育成



【手立て①】「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」の設定
【手立て②】「ポートフォリオ」の導入

家庭科学習の現状

基本的な考え方

1 学びを生かし、生活をよりよくしようと工夫する児童の姿

【目指す児童像】

家族の一員として生活の営みに協力しようとする意欲を高め、習得した知識及び技能を生かして家庭生活で実践できる児童

3 「ポートフォリオ」を導入する目的

ポートフォリオに記述した「学習内容」や「自分の考え」を家族と共有し、会話を通して得た「家族の思い」や「家族からの情報やアドバイス」を学習に生かすことで、家族の一員として生活の営みに協力しようとする意欲を高めることができるようになる。

2 「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」の設定の仕方

家庭科、技術・家庭科(家庭分野)の学習過程の参考例

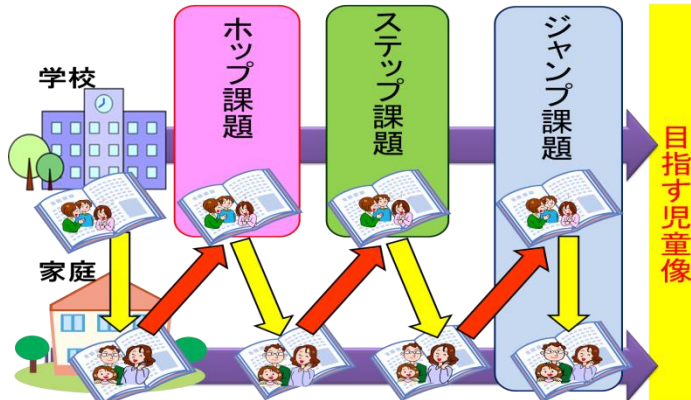


※上記に示す各学習過程は例示であり、上例に限定されるものではないこと

(次期小学校学習指導要領解説家庭科編参照)

「ホップ課題」→「ステップ課題」→「ジャンプ課題」と、それぞれの課題解決を重ねることで、知識及び技能を広く活用し、習得を深めるとともに、家庭で実践することができるようにする。

4 「ポートフォリオ」の導入の仕方 (紀要P.9参照)



目指す児童像

実践の概要

学習過程

第5学年・6学年で実践を行いました。第5学年の実践例を紹介します。

学習過程	学習活動	対象	研究協力校 第5学年・第6学年(各1学級)
生活の課題発見	・既習の知識及び技能や生活経験を基に自らの生活を見つめ、その中から問題を見だし、学習課題を設定する。	実施期日	平成30年10月1日(月)～11月12日(月)
解決方法の検討と学習計画	・学習課題を解決するための解決方法を検討する。 ・学習課題の解決の見通しをもち、計画を立てる。	実施学年	第5学年
実践活動の計画	既習の知識及び技能や生活経験を活用 ・「ホップ課題」の計画を立てる。	題材	「食べて 元気に」(開隆堂)
課題解決に向けた実践活動(学校)	・「ホップ課題」の実践(グループやペアで調理)を行う。	時数	12
実践活動の評価改善計画	ホップ課題で習得した知識及び技能を活用 ・「ホップ課題」の実践を振り返る。 ・「ステップ課題」の計画を立てる。	題材の目標	日常の食事に興味をもち、食事の大切さや五大栄養素の種類と働きを理解し、日本の伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を考え、それらをつくることができるようにする。
課題解決に向けた実践活動(学校)	・「ステップ課題」の実践(一人で調理)を行う。	学習課題【第1時で決定】	「家族が喜ぶ食事のために、自分ができることを増やそう！」 そのためにはどんなことを考えればよいのだろうか。
実践活動の評価改善計画	ホップ課題-ステップ課題で習得した知識及び技能を活用 ・「ステップ課題」の実践を振り返る。 ・「ジャンプ課題」の計画を立てる。	ホップ課題	【第4時】(計画)おいしいご飯とみそ汁のつくり方をさぐろう 【第5・6時】(グループで実践)おいしいご飯をたいてみよう 【第7時】(ペアで実践)おいしいみそ汁をつくらせよう 【第9時】(計画)おいしいみそ汁の調理計画を立てよう
課題解決に向けた実践活動(学校)	・「ジャンプ課題」の実践(家庭で調理)を行う。	ステップ課題	課題の概要:「今日は自分のみそ汁をつくるよ。」と家族に提案。使える材料は、大根・ねぎ・小松菜...。18時からつくり始めます。18時20分には家族全員がそろいます...。 【第10時】(一人で実践)自分の力でおいしいみそ汁をつくらせよう
実践活動の評価改善計画	ホップ課題-ステップ課題-ジャンプ課題で習得した知識及び技能を活用 ・「ジャンプ課題」の実践を振り返る。 ・学習課題の解決についてまとめ、今後の生活の新たな課題を見付ける。	ジャンプ課題	【第11時】(計画)家族が喜ぶ食事のための調理計画を立てよう 【家庭】(実践)家族が喜ぶ食事をつくらせよう

第5学年における授業実践

児童の思い

- ・自分で料理をつくって家族に食べてもらいたい。
- ・包丁を上手に使えるようになって、お母さんを手伝いたい。

家族の思い

- ・自分で調理しておいしく食事がとれる人になってもらいたい。
- ・好き嫌いがなく、何でも食べてほしい。

<学習課題>家族が喜ぶ食事のために、自分ができることを増やそう

①実生活を探る 「ホップ課題」の実践

既習の知識及び技能や生活経験を活用し、グループやペアでご飯とみそ汁の調理を行いました。

1. 検討と計画 【第4時】

ご飯とみそ汁の調理手順を見て、「なぜ?」と疑問に思うことを挙げてください。

なぜ、吸水させるのだから?

なぜ、強火⇒中火⇒弱火に、火力を調節するのだから?

なぜ、にぼしの頭と はらわたを取るのだから?

なぜ、みそを最後に入れるのだから?

なるほど! 分かった!

児童A:なんでもにぼしの頭とはらわたを取るのかな?

児童B:かたいからじゃない?

児童C:おいしくないからだと思う。

児童D:前におばあちゃんがはらわたは苦いって言った。

児童A:そうか。確かに秋刀魚のはらわたも食べたらかかった。だから取った方がいいんだね。

みそを入れてから長い時間加熱し続けると、みその風味が失われてしまうから気を付けてね。(母)

ポートフォリオ

「ホップ課題」を終えた児童の感想

- ★炊飯は火加減が大切だと分かりました。上手に調節できるようになりたいです。
- ★みそ汁をつくらせたら、だしのおいしさ分かりました。
- ★材料を切っている間にみそ汁の水が蒸発してしまうので、今度は蒸発分の水の量をもっと増やしたいです。

大根などのかたい食材は、薄く切ると早く火が通るよ。次は手際よくできるように頑張るね。(母)

ポートフォリオ

「ホップ課題」において、友達と協働して炊飯やみそ汁を調理する実践を行ったことで、児童は、調理の基礎的・基本的な知識及び技能(計量や火加減の調節、だしの取り方や材料の切り方等)を実践的・体験的に学ぶことができました。また、新たに見いだした課題について自分なりに改善策を考えたり、実践の様子を家族に伝え、家族から情報やアドバイスをもらったりすることで、課題解決に向けて主体的に取り組む姿が見られました。

ホップ課題

ステップ課題

ジャンプ課題

2. 実践活動

【第5・6時】ご飯の調理実習(グループ活動)



計量



吸水させる

【第7時】みそ汁の調理実習(ペア活動)



だしの準備



材料を切る

②想定された状況の中で生活を工夫する「ステップ課題」の実践

「ホップ課題」で習得した知識及び技能を活用し、家族の一員として一人でみそ汁の調理を行いました。

こんな時、家族のためにどんなみそ汁を考えますか？



1. 検討と計画 【第9時】

家族のために調理したいな。みそ汁ならできるかも！

今までの調理実習で使ったことのある材料もあるぞ！

ご飯とからあげの栄養素を考えると足りない栄養素は…

20分間でみそ汁をつくるのか…。手際よくできるように計画しないと。

私のお母さんはダイエットしてるから、野菜を2品にして喜んでもらえるように考えたよ。



調理は材料やつくり方を自分なりに工夫できるから楽しいよね。(母)

＜みそ汁名とその理由（調理を工夫する視点）＞

自分の考え	なぜそうするのか(理由)
みそ汁名 油あげとわかめとだいこんとねぎ	この食材はたんぱく質も無機質もシシがふくまれている栄養のバランスが良い
みそ汁名 わかめとねぎと小松菜と油あげ	材料だから。

栄養のバランス

家族の好み

＜調理方法とその理由（調理を工夫する視点）＞

調理方法	理由
大根は1cm幅に切ろう	根は厚いと1cm幅の時間が長い。

材料の切り方

2. 実践活動

【第10時】



「ステップ課題」を終えた児童の感想

- ★大根の厚さがちょうどよかったです。家でつくるときもがんばりたいです。
- ★一人でもとてもおいしいみそ汁ができたので、家でつくことに自信がわいてきました。

自分でできた！

おいしいみそ汁ができたみたいだね。そのみそ汁、お家でもつくって、家族みんなに食べさせてほしいな。(父)

ポートフォリオ

ポートフォリオ

「ステップ課題」において、実生活で起こり得る状況を想定して児童に提示したことで、児童は「ホップ課題」で習得した知識及び技能を実践的に活用し、家族の状況や健康状態を考えて調理計画を立てることができました。また、これまでに得た家族からの情報やアドバイスが役に立ったことを実感したり、実際に一人でみそ汁を完成できたりしたことが、自信につながったようでした。

③実生活を工夫する「ジャンプ課題」の実践

「ホップ課題」「ステップ課題」で習得した知識及び技能を活用し、家族の一員として家庭で調理を行いました。その後、「実践報告会」を行いました。

できるようになったことを生かして、家族が喜ぶ食事をつくりましょう！！

1. 検討と計画 【第11時】

おじいちゃんの畑の野菜を使ったみそ汁をつくっておじいちゃんおばあちゃんに食べてもらいたいな。(旬の食材)

お母さんがこの前つくってくれたみそ汁を私もつくってみたいな。(家庭の味)

お父さんが、塩分の取り過ぎに気を付けているからみその量を調節しよう。(味の付け方)

お兄ちゃんが体を鍛えているからたんぱく質の多い肉を入れよう。(栄養のバランス)

家族への思い

(調理を工夫する視点)

妹の歯が抜けそうだからやわらかい材料を使おう。(材料の選択)

弟は野菜嫌いだけど、細かく切れば食べられるかな。(材料の切り方)



児童E：貝たくさんすぎかな？
児童F：そんなことないよ。旬の野菜も使っていて、色どりもいいし、栄養満点だね！
児童E：おじいちゃんが作ってくれた野菜を使おうと思ってる。

2. 実践

【家庭】



野菜の切り方が前に練習したときよりずっと上手になっていて驚きました。頑張って完成させたみそ汁、とってもおいしかったです。またつくってね。(父・母)

ポートフォリオ

またやりたい！役に立ちたい！

【第12時 実践報告会】(★は紹介者)

- 児童G：だしは何で取ったのですか？
- 児童H★：かつおぶしです。
- 児童I：OOくん(Hの弟)も飲めましたか？
- 児童H★：はい、飲めました。
- 児童J：よかったね。

グループ①

- 児童J：なんでこれらの材料を選んだのですか？
- 児童K★：栄養をしっかりとれるようにするためです。
- 児童L：家族の誰を思ってたのですか？一番は？
- 児童K：え～一番？うん…家族全員です!!
- 児童L：さすがだね。

グループ②



「ジャンプ課題」を終えた児童の感想

- ★学校でつくったときは、みその量が多すぎてしょっぱかったけど、家でつくったときはちょうどよい味で家族が喜んでくれました。また今度は違う具材で調理しようと思いました。
- ★学校で調理した時よりうまく早くできたのでよかったです。

「ジャンプ課題」においては、学習の集大成として、学びを生かして家族のために家庭で調理することができました。家族に喜んでもらったことで、児童は実践する喜びや達成感を味わうことができたようでした。実践報告会における活発な交流からも児童の実践が充実していた様子が伝わりました。



研究のまとめ

研究の成果

(1) 実践より(第5学年・第6学年)

【手立て①】「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」の設定に関して

一連の学習過程に「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」を位置付けた題材を構成し、指導を工夫したことで、児童はそれぞれの課題解決に向けて実践を重ねることができた。これにより、児童は知識及び技能を繰り返し活用し、課題を解決する学習を家庭につなぐことができた。また、特に家庭での実践では、習得した知識及び技能を広く活用し、更に習得を深めるとともに、生活をよりよくしようと工夫することができた。と考える。

【手立て②】「ポートフォリオ」の導入に関して

一連の学習過程において、「ポートフォリオ」を導入し、家庭との連携を図ったことで、児童は主体的に学習内容を家族と共有し、実生活に関心をもつことができた。また、学習内容と実生活の課題を結び付けて考え、課題を解決したり実践したりすることができた。これにより、児童は家族の一員として生活の営みに協力しようとする意欲を高めることができた。と考える。

最初はむずかしそうだなと思っていたけれど、授業で勉強していくうちにだんだんできる気がしてきて、計画を立てている時は、どうすれば喜んでくれるかなと考えたりして、家でつくるの外として楽しみました。家でつくる家族に、ありがとうと言われたのでとてもうれしかったです。

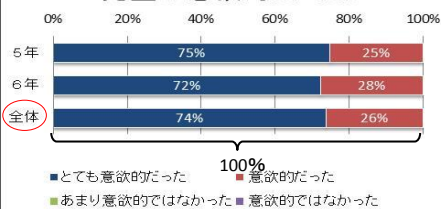
↑第5学年児童

家族の一員として食事を考え、自分で工夫できることを増やすという目標をもち、ホップ・ステップ・ジャンプ課題をして、おいしく食べられるための調理法、盛り付けなどの工夫を知り、同時調理などでき、これから生かせることを知れたと思います。授業で学んだ工夫、家族と共有してもらって工夫を家で生かして、ほめられるようにしたいです。

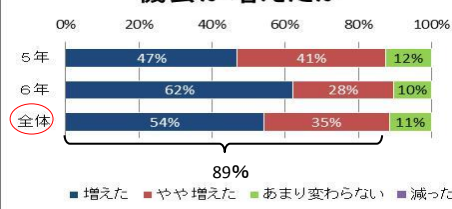
↑第6学年児童

(2) 保護者アンケート結果より(第5学年・第6学年)

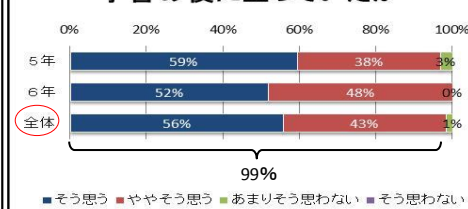
「ジャンプ課題」に対して児童は意欲的だったか



学習内容について会話する機会が増えたか



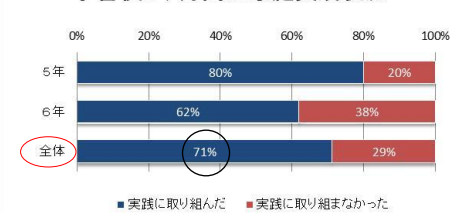
家族からの情報やアドバイスが学習の役に立っていたか



「ジャンプ課題」に対する児童の取組の様子は、全児童(100%)が意欲的であったことが分かった。また、全体の89%の家庭において児童と家族の会話が増え、児童の話や「ポートフォリオ」を通して学習内容が家庭に伝わったことが分かった。「家族からの情報やアドバイス」については、全体の99%の保護者が学習の役に立っていたと思うと答えた。また、保護者の自由記述からも、一連の学習過程を通じた児童の成長や意欲的な実践の様子が伝えられた。これらのことから、学習に対して、家庭の理解と協力を得ることができた。と考える。

(3) 児童の継続的な実践状況より(第5学年・第6学年)

学習後1ヶ月間の家庭実践状況



学習終了後の1ヶ月間の食生活に関わる家庭実践状況については、「実践記録カード」を基に把握した。

その結果、全体の約70%の児童が主体的に家庭で実践しており、学習が継続的な実践へとつながっていたことが分かった。実践内容としては、第5学年で「ご飯」や「みそ汁」の調理、第6学年で「おかず」の調理が多かったことから、学びを生かして実践することができた。と考える。

私が料理をしている間、じっと観察して「それやってみよう！」と積極的に関わってくれるようになりました。(第5学年保護者)

「またつくりたい」「他のものもつくりたい」と、以前よりもっと調理に興味が出てきたように思います。(第6学年保護者)

(1)～(3)の成果を総合的に考察すると、児童は「知識及び技能」を繰り返し活用したことで「思考力・判断力・表現力等」を身に付け、習得した知識及び技能に自信をもち、家庭での実践につなげることができたと捉えることができる。また、この自信が原動力となり、「またやってみよう。」「家族の役に立ちたい。」と、家族の一員として家庭で実践する意欲を高めることができた。と捉えることができる。この意欲は、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養につながるものであろう。以上のことから、家庭科学習における「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」の設定と「ポートフォリオ」の導入は、「学びを生かし、生活をよりよくしようと工夫する児童の育成」の実現に有効であった。と考える。

今後の課題

【見直し①】「ホップ・ステップ・ジャンプ課題」の設定に関して

実践活動を設定した一単位時間の進め方や時数調整を含めた題材構成の工夫及び学校の特色や児童の実態に応じた年間指導計画の見直しが必要である。

【見直し②】「ポートフォリオ」の導入に関して

「ポートフォリオ」の導入の有無に関わらず、児童が家庭科の学びを生活に生かそうとする意欲を高め、主体的に家族とコミュニケーションを図りながら学習を進めるための更なる指導の工夫が必要である。

